

Crown English Communication I, pp. 98–99.

Lesson 7**Paper Architect**

Ban Shigeru is a world-famous architect. He built a museum in France and the *Nihon-kan* at an international exposition in Germany. Perhaps he is best ⁽¹⁾known for using unusual materials like paper tubes.

—1

On January 17, 1995, there was a great earthquake in the Hanshin area. Ban Shigeru went to Kobe and saw many of the victims of the earthquake standing together near their church; it had been badly ⁽²⁾damaged. He asked the priest, “Why don’t we build a new church using paper tubes?” At first, the priest did not ⁽³⁾agree to the offer. He said that the most important thing should be housing for the victims.

Ban visited the church many times to talk to the priest. He told the priest that the church was important because it would ⁽⁴⁾serve as a community center for the earthquake victims. Finally, the priest understood Ban’s way of thinking. Ban and more than 300 volunteers worked together to build the church.

Lesson 7—Lead

(1) known ㊦ 2b, p. 1118.

b [be known for A] 〈人・物などが〉A〈業績・長所・特徴などで知られている。有名である (㊦ Aは ㊦ ㊦名)〉▶She is **best known for** her roles as the heroine of the “Rocky” films. 彼女は『ロッキー』ものの映画のヒロイン役で一番知られている/You are known for being a TV actor. あなたはテレビ俳優として有名です/Google is well [×quite, ×rather] known for its popular search engine. グーグルは人気の高い検索エンジンで有名です。

- 教科書本文では known for using...と for が後続していることから[be known for A]の文型表示がある 2b に導く。
- 語義に続く ㊦ の解説で、文型表示の A には名詞、動名詞が来ることをチェックさせて、教科書本文では代名詞になっていることを確かめさせる。
- 辞書の第1用例が教科書本文と同じコロケーション(is best known for ...)を使っているので参照させる。太字用例であることから、よく用いられる語の組み合わせ(コロケーション)であることに触れるとよい。

Lesson 7—Section 1

(2) damage ㊦ ㊦ 1, p. 494.

— ㊦ 〈～s /-ɪz/; ~d /-ɪd/; -aging〉

— ㊦ 1 〈物・事が〉〈物・身体の一部などに損害[損傷]を与える; 〈健康)を損なう (㊦ 目的語が人の時には hurt, injure を用いる; →break 類義)〉▶a village **badly** [seriously] **damaged** by the storm 嵐により甚大な被害を受けた村/Smoking may **damage** your health. 喫煙はあなたの健康を損なう恐れがあります。 2 〈名誉・信用などを傷つける〉▶His career was permanently **damaged**. 彼は経歴に消すことのできない傷を負った。 — ㊦ 〈物などが〉傷つく, 傷む。

- 教科書本文が受動態であることを確認させる。辞書では動詞が取る典型的な主語・目的語(選択制限)が山形かっこで示されているのでチェックさせる。It (ここでは=their church 「彼らの教会」)という建物が主語になっていることから、〈物・体の一部など)を従える語義 1 を参照させる。
- 辞書の第1用例が教科書本文と同じコロケーション(badly damaged)であることを確認させ、頻度の高い表現として太字になっていることに注意させる。また角かっこ []は「言い換え可能」ということを示しているので、badly の他に seriously という副詞も使われることをチェックさせる。
- 第1用例の用例訳を参照させ、教科書のこの部分が「それ[彼らの教会]は甚大な被害を受けていた[大きく損壊していた]」という意味になることを理解させる。

(3) agree ㊦ ㊦ 3, p. 47.

3 [agree (to A)] 〈人・組織などが〉(A〈提案・要求などに) (議論・説得の後)同意する, …を承諾[承知]する (㊦ Aは ㊦ ㊦名; agree to は受け身が可能); [agree to do] …することに同意する (㊦ 時に agree for A to do (A (人)が…することに同意する)の形で) ▶I asked for a pay raise and she reluctantly [readily] **agreed**. 昇給を要求したら彼女はしぶしぶ[快く]同意した/I can't **agree** [to your request [×to you]. 君の依頼には応じられない (㊦ 人との同意には with を用いる)/**agree to** pay \$80 million in damages 8千万ドルの損害賠償を支払うことに同意する/**agree to terms** with the player その選手と条件で合意に達する (㊦ (英) では to が省略されることがある)。

- 教科書本文が agree to the offer と to が後続していることから語義 3 に導く。2つの文型表示を比較させた後、教科書のこの部分では to の後には動詞の原形ではなく名詞が来ていることから[agree (to A)]の形になっていることを確かめさせる。
- 文型表示に続く語義では丸かっこ ()で示した意味の補足説明をチェックさせる。教科書のこの部分では「(議論・説得しても)当初、司祭はその申し出に同意しなかった」と述べていることに注意させる。
- 辞書の第2用例では A の部分に来る名詞が「人」の場合は to ではなく with を用いることが×を使って示されているので確認させる。agree はよく使われる動詞なので、前置詞の違いで用法や意味が異ってくることをしっかり理解させる。

(4) serve ㊦ ㊦ 1, p. 1787.

— ㊦ 1 «…として/…するのに» 役立つ, 用をなす, 間に合う «as, for/to do» ▶This box **serves as** [for] a seat. この箱はいすの代わりに使える/It isn't very good, but it will **serve**. それはあまりよくはないが、まあ間に合うでしょう/It [only **serves** [serves only] to show his incompetence. それは彼の無能ぶりを示すに役立つだけである。

2 a «…として/組織・場所に» 勤務する, 務める «as/in, on, with», «…のために/人の下で» 働く, 仕事をする «for/under» ▶**serve in** a shop 店員を勤める/**serve as** a staff scientist **with** NASA NASA で専任科学者として勤務する/**serve on** a committee 委員を務める。 **b** (使用人として) «家族・場所に/…として» 奉公する «with/as»。

- 教科書本文では主語が it (=church)であり、serve の後が名詞でなく前置詞の as であることを確かめさせ、自動詞を調べさせる。
- 二重山形かっこ « »で共によく使われる前置詞が示されているのでチェックさせる。教科書本文と同じ as を伴うと示している語義 1, 2a, 2b のうち、語義 2a, 2b はそれぞれ「…として勤務する」「…として奉公する」という意味であり、主語が「教会」である教科書本文とは合わないことを確かめさせ、語義 1 を確認させる。

Crown English Communication I, p. 100.

—2

How did Ban become (1)interested in helping people in need? And why did he begin building with paper tubes?

When Ban began practicing architecture in 1984, he wanted to be different from other architects. It (2)seemed to him that they were often interested in working for rich, powerful people. On the other (3)hand, he felt that as an architect he should help people affected by disaster. He started

Lesson 7—Section 2

(1) interested ㊦ 2, p. 1056.

in·ter·est·ed ㊦ /ɪnt(ə)rɛstɪd, -tərəst-/ (㊦強勢は第1音節) [→interest]

— ㊦ (more ~; most ~) 1 **[[be interested (in A)]** (A〈事・物・人〉に)興味を持っている, 関心がある (↔uninterested, bored) ▶be very [really, very much] interested in politics 政治に非常に興味がある (×be interested about [for]... としない)/be [get] interested in what they said 彼らが言ったことに関心がある[を持つ]/John is interested in you. (恋愛感情を述べて)ジョンは君に気がある; (好奇心で)ジョンは君に興味を持っている/Look, I've told you—I'm not interested. いいかい, 言っただろう, 私は興味ないんだ.

2 **[[be interested in doing/to do]]** …したいと思う, …することに興味がある (㊦ want to do より遠回しな表現); [[be ~]] «…して» おもしろいと思う «to do», «…が» 欲しい «in» ▶Susan is interested [in working [(まれ) to work] with you. スーザンは君と仕事をしがっている/I'd be very interested to hear [in hearing] about your life. あなたの人生についてはぜひお聞きしたいですね (↓**コーパスの窓**)/You may be interested to know that many people still believe in ghosts. 多くの人がまだ幽霊を信じていると知ったらおもしろいと思われることでしょう/be interested in food 食べ物に欲しい (㊦「食べ物に興味がある」の意にもなる).

コーパスの窓 be interested to do
to do には主に know, see, hear, learn, read, find, discover などの ㊦ を従えて知的好奇心を表す.

- interested には in が続くことが多いという事は生徒たちも知っているだろうが, 辞書には頻出する形が文型として示されていることに注意させたい。[[be interested (in A)]]の文型表示がある語義 1 を参照させて, interesting が叙述用法で用いられること, 興味の対象は in で導かれることを確かめさせる。辞書ではしばしば省略可能な部分が()に囲って表示されていることにも触れ, 辞書の最後の用例で確認させる。
- 教科書本文が interested in helping と前置詞 in+doing の形が続いていることから, [[be interested in doing/to do]]の文型表示がある 2 に導き, 意味を確認させる。文型表示の中では言い換え可能な部分がスラッシュ(/)を使って表現されていることに注意させ, この文型では動名詞だけでなく to 不定詞も使えるということを確認させるのもよい。

(2) seem ㊦ 2a, p. 1774.

2a **[[it seems [would seem] (to A) (that) 節]** (A〈人〉には)…であるように思える, …であるらしい (㊦(主に米・ややくだけで)では like 節を伴うこともある) ▶It seems that she is angry. 彼女は怒っているようだ (㊦ She seems to be angry. ともいえるが, これは彼女が怒っていることにある程度は確信がある発言; ↓**語法**)/It would seem that she's not coming. 彼女は来そうにありません/It seems that they divorced last month. 彼らは先月, 離婚したようです (㊦ 断定を避けた発言).

語法 it seems の用法

- (1) that 節の内容が話者に不確かである場合や, 確かでも丁寧な言いたい場合に用いる (↑2a 第1, 3例).
- (2) it seems ..., but ... で「…と思われるが(実際は異なる)」という譲歩を表す場合がある (→may **読解のポイント**).
- (3) It would seem の方が It seems より丁寧な表現.
- (4) 文中や文末にも置くことができる ▶This, it seems (to me), is the point. これが重要な点であるように思われる.

- 教科書本文が It seemed to him that と it で始まり to+人+that 節が続いているので, [[it seems [would seem] (to A) (that) 節]]の文型表示を手掛かりに 2a を参照させる。角かっこ[]を用いた言い換えや, ()の部分省略可能であることにも注意させたい。
- 構造がシンプルな辞書の第1用例を使って it が that 節の内容を表していることを理解させる。教科書本文では to him が使われていることから, この部分では「彼[=坂氏]には, 彼ら[=ほかの建築家]は多くの場合, 裕福で権力のある人のために働くことに興味を抱いているように思われた」という意味になることを確かめさせる。
- 語法** コラムには it seems の詳しい用法が説明されているので, 参照させるとより理解を深めさせることができる。

(3) hand 図成句 **on the other hand**, p. 910.

on the other hand* (1) [[対比]] 他方では、(その)一方で、別の見方をすれば (1) 対比される2つの内容は矛盾するものでなく、対比的ではあるが両立しうる; ↓ [読解のポイント]; → on the CONTRARY [語法のポイント]. (2) 2つの異なる事柄や考えや視点を対照する場合に用いる; 本来 on (the) one hand と対をなすが、前述の内容を受け単独で用いられることが多い. (3) 対比したい2つの内容を明確化したり、その内容を表す部分が長い場合は on (the) one hand と共に用いる方が好ましい) ▶ On the one hand I do want to travel abroad, **but on the other hand** I don't have enough money for that. 一方では海外旅行をしたいのはやまやまだが、他方ではそれだけの金がない. (2) [[同時]] (一方)その間に ▶ She was absorbed in reading. **On the other hand**, the cake had burned black. 彼女は読書に夢中になっていた。その間にケーキは黒こげになってしまった.

[読解のポイント] 対比の表現

2つ(またはそれ以上)の要素を並べて相違を強調するとき用いられる。対照的な内容を単に列挙する場合と、後半要素に力点がある場合がある。on the other hand のほか、at the same time, in contrast, while 3, meanwhile 2, one ... another, one ... the other, some ... other などがある。また、but や however といった逆接の表現もしばしば対比の目印となる (1) 逆接の詳細は → but 図 1) ▶ Some people say that the site was used as a home; **on the other hand**, scholars argue that the place had a purely religious function. その遺跡は家屋として使われていたと言う人も一部にいる。一方、研究者たちはその場所は純粋に宗教的な機能を持っていたと主張する (1) Some people と scholars の主張が対比されている) / **While some people** are only minimally affected by pollen, **other people** strongly react to them. 一部の人は花粉の影響をほとんど受けない一方、強く反応する人もいる (1) 花粉の影響を受けない人と受ける人が対比されている) / **While the essay** contained a few errors, for the most part it was outstanding. その論文は多少の間違いを含んではいたものの、おおむね優れていた (1) 後半に力点がある) / When we talk about diversity, we tend to think of race, **but** actually, human diversity is cultural diversity. 多様性について論じるとき、我々は人種を念頭に置きがちだが、実際には人間の多様性とは文化的な多様性のことである (1) 後半に力点がある).

- 重要成句として赤いアスタリスク(*)が付いているので注意させる。
- 成句義(1)に[[対比]]という大まかな意味の表示があることを確かめさせる。訳語に続いて(1)の注記で用法が説明されているのでチェックさせる。教科書本文では前文で述べられた「裕福で権力のある人のために働くほかの建築家」と「被災者を助ける坂氏」とが対比されていることを確認させる。
- 長文読解に役立つ情報が**[読解のポイント]**コラムに掲載されているので確認させる。特に第1用例は **on the other hand** を使っているので、例として参照させる。こうした対比の表現に注意して読むことで、著者の論点がわかりやすくなることを理解させた。

Crown English Communication I, p. 101.

using paper tubes for disaster-relief ⁽¹⁾structures because they are strong and easy to find.

In ⁽²⁾addition to his work in Kobe, Ban has built a paper-tube school in China, and a paper-tube church in New Zealand. Ban has also used shipping ⁽³⁾containers to make temporary housing in Miyagi.

One of the keys to Ban's success is that he does not let anything stand in his way. When there was a big earthquake in Haiti in 2010, the airports were closed. Ban did not give up. He ⁽⁴⁾flew to the Dominican Republic and, together with some students, drove for six hours to get to Haiti. They then built shelters for the victims using paper tubes.

(1) structure 図 2, p. 1958.

struc·ture: /strʌktʃər/ [struct (積み上げる) ure (こと)] (形) structural

① 図 (② ~s /-z/) 1 ㊦㊧ 構造, 仕組み, 構成; 組織, 機構 ▶the power **structure** 権力構造/the internal **structure** of the Earth 地球の内部構造/the political **structure** of Japan ② ㊦ 日本の政治構造.
2 ㊦ 建造物, 建築物, 構造物 ▶the largest wooden **structure** in the world 世界最大の木造建築.

- ・ 教科書本文が建築の話であることから語義 2 に導き, ここでは「災害救済の建築物」という意味になることを確認させる。
- ・ **structure** は語義 1 の「構造」の意味でもしばしば用いられるので, 同時に確認させておくとよい。
- ・ 辞書の語義 1 の最後の用例のように, 大学入試の論説文や, ニュース記事・ビジネス文書など, 論理的英文に特徴的に表れる表現には, 用例に「論説」ロゴを付してある。上記例なども実際にセンター試験や私大入試などの長文読解問題に非常によく出てくる表現なので, 生徒には「論説」ロゴの付いた用例はきちんとマスターしておくこと」と指導しておくのもよい。

(2) addition 図 成句 in addition to A, pp. 27–28.


【読解のポイント】 列挙・追加の表現

複数の事柄を並べ挙げるときに用いられ, (a) 同じ重要度で列挙している場合, (b) 後に行くに従い重要度が増す場合, (c) 後に行くに従い重要度が減る場合, (d) 順序が問題となっている場合(因果関係・手順の説明など), などがある。同様の機能を持つ表現には, also, or ㊦ 1, furthermore, moreover, not only [merely, simply, just] A but (also) B, as well as ..., first(ly)/second(ly)/third(ly) ... last(ly), then, next, one ㊦ 3/another ㊦ 1/the other, some/others/still others, セミコロン(;) などがある ▶The world's population is growing faster than ever before. *In addition*, it is spread unevenly. 世界の人口はこれまで以上の速度で増加している。その上, 不均等に拡大している/Our health depends *not only* on what happens inside our bodies, *but also* on the conditions under which we live. 我々の健康は, 体の中で起きることだけではなく, 我々が生活する条件によっても左右される/How has the Internet changed our lifestyle? *First*, it has changed the way we manage information. *Second*, it has dramatically changed the way we connect with each other. *Third*, and more profoundly, the Internet has changed the way we present ourselves. インターネットは私たちの生活をどのように変えたのか。第一に情報管理の方法を変えた。第二に, 人々との通信方法を大きく変えた。第三に, そしてより深いところで, インターネットは自己表現の方法を変えた (㊦ 後に行くに従い重要度が増している)/To cook brown rice, *first* wash and drain one cup of rice, *then* put it in a pan with two cups of water. Cover the pan; place over a high heat and bring to a boil. 玄米を炊くには, まず米 1 カップを研ぎ, 次に鍋に米と 2 カップの水を入れます。鍋にふたをして, 強火にかけ沸騰させます (㊦ 手順を列挙している)。

- ・ 重要成句として赤いアスタリスク(*)が付いているので注意させる。
- ・ A の部分に来る要素は名詞・動名詞であることが ㊦ を使って示されているのでチェックさせる。教科書本文では名詞句が続いており, 「神戸での仕事に加え」という意味になることを確認させる。
- ・ 関連表現として, 「列挙・追加」を示す表現をまとめた【読解のポイント】コラムが *in addition to A* のすぐ上にあるので参照させるとよい。長めのコラムだが, 生徒の読解力アップにつながり, 大学受験の長文読解にも役に立つ情報である。時には時間をかけた辞書引き活動も大切だということを認識させたい。



指導用資料

(3) container 図 2, p. 434.

con-tain-er*  /kəntéinər/ [→contain]

— 図 (㊟ ~s /-z/) ㊟ 1 容器, 入れ物 (box, bottle, bowl, can, jar などの総称) ▶ a plastic [sealed] *container* プラスチック[密閉]容器 / *container gardening* [planting] 植木鉢を使った園芸.

2 (貨物輸送用)コンテナ; 〔形容詞的に〕コンテナ(用)の ▶ a *container ship* コンテナ船.

- p.103 の写真とキャプションを参照させて語義 2 に導き、教科書本文では「仮設住宅を作るのに輸送用コンテナを使った」という意味になることを確かめさせる。
- 見出し語に続く発音記号について調べさせる機会はそれほどないかもしれないが、「コンテナ」というカタカナ語の発音から類推されるアクセントの位置や母音の発音と違っているの注意を促すとよい。第一強勢のある二重母音であること(発音記号の /éi/ の部分)だけを説明してやると生徒も理解しやすい。
- この語のように、中学必修 (A ランク)、高校必修 (B ランク) 以下の下位ランク語 (C/D/E ランク) であっても、日常生活で頻出する語や、日本の事物のことを発信する際に必要とされる語については、 ロゴを付して用例・解説を増強してある。実際に、会話長文やオーラルなど、大学入試にも頻出する語であるし、英語での発信の際にも役立つ語なので、 ロゴの付いた語は意識的にマスターしておくように指導しておくのもよい。

(4) fly¹ 動 ㊟ 2, p. 770.

2 [[fly(+動)]] a <人が> 飛行機で行く (㊟ 動 は方向・場所・移動の表現) ▶ fly (direct [nonstop]) from London to Narita ロンドン・成田間を(直行便[ノンストップ]で)飛ぶ / fly about Asia アジア各地を飛行機で旅行する / Who did you fly with? どちらの航空会社の便でいらっしゃいましたか. b <人が> 飛行機を操縦する ▶ The pilot flies across the Atlantic once a month. そのパイロットは月一度は大西洋を横断飛行します.

- 教科書本文では主語が He であり、前置詞句が続くことから自動詞用法であることを確かめさせる。
- 主語として選ばれる名詞(選択制限)を表す山形かっこに囲って <人が> と示していることや、教科書本文が空港について触れている部分であることから語義 2 を参照させる。教科書のこの部分が、ハイチの空港が閉鎖されてもあきらめず、「ドミニカ共和国に飛行機で行って」、車で現地入りしたという意味になることを確認させる。「…へ飛行機で行く」という場合、生徒は go to ... by airplane [plane] を思い浮かべがちだが、自動詞ひとつで fly to ... とシンプルに表現できることにも注意させる。

Crown English Communication I, p. 102.

—3

Ban started an NGO called Voluntary Architects' Network (VAN) in 1995. VAN works to help victims of disasters such as earthquakes and ⁽¹⁾war all over the world.

Ban believes that relief structures should be beautiful. Because they help restore the ⁽²⁾self-respect of disaster victims, his shelters have been called “dignity buildings.” Ban says that just ⁽³⁾because a structure is temporary doesn't mean it shouldn't look good. “Displaced people are damaged in spirit as well as in body,” he explains.

Lesson 7—Section 3

(1) war 図 1, p. 2210.

war* /wɔːr/ (1-ar- は /ɔːr/; wore と同音)
 【語源は「混乱させる」】
 ① (② ~s /-z/) 1 ③ 【具体例では ④】 «…との/…の間
 の》戦争, 戦争状態; 戦時 «with, on, against/between»
 (↔ peace; → battle) ▶ **War broke out between** the
 two countries. その2か国間に戦争が勃発した/be killed
 in [World War II /tuː/ [the Vietnam War] 第2次世界
 大戦[ベトナム戦争]で戦死する (1 固有名詞+war には通
 例 the が付く)/win [lose] a war with France フランス
 との戦争に勝つ[負ける]/declare war on [against] Ger-
 many ドイツに宣戦布告する/the war between Iran and
 Iraq ≡ the Iran-Iraq war イラン・イラク戦争/fight [a
 war [in a war] 戦争を行う[で戦う]/(a) nuclear [con-
 ventional] war 核[核兵器を用いない]従来型の戦争。

- ・ 語義 1 に続く ④ のロゴと, 【具体例では ④】
 という用法指示をチェックさせる。単に
 「戦争が勃発した」という表現に使われて
 いる辞書の第1用例は冠詞のない不加算
 用法で, 「フランスとの(ある)戦争に勝つ
 [負ける]」という具体的な例を示した第3
 用例は不定冠詞のついた加算用法である
 ことを確認させる。
- ・ 教科書本文では earthquakes and war と
 and で2つの名詞が並列されていることを
 確かめさせる。一般に「地震」「戦争」とい
 う場合, 可算名詞の earthquake は複数形
 に, 不可算名詞の war は単数形のままにな
 ることに注意させる。

(2) self-respect 図, p. 1778.

self-re-spect* /sɛlfrɪspɛkt/ 図 ④ 自尊(心) ▶ keep
 one's dignity and self-respect 威信と自尊心を保つ。

- ・ 語義は1つなので簡単に調べさせること
 ができる。同じページに self-で始まる単語
 がたくさん載っていることに注意させる。
- ・ 前の 1776 ページにある self-という見出し
 語を探させて, (複合要素) というロゴを確かめ
 させる。self-は後ろに来る語と複合して,
 別の語を作る要素であることを確認させ
 る。

self- /self/ (複合要素) 自分で, 自ら(を), 自分自身に, 自分だけ
 で, 自動的な, ひとりで。

- ・ self-が持つ意味を確かめさせて, 教科書本
 文の self-respect が self- (自ら) と respect
 (尊重) という意味が複合して「自尊心」を表
 していることを理解させる。pp. 1776–78
 には self-で始まる単語がたくさん載って
 いるので, 生徒の知っている語を自由に探
 させると接頭辞に対する興味が深まる。紙
 の辞書だからこそできる辞書引き活動と
 して生徒に経験させたい。

(3) because 図 3, p. 175.

3 《くだけた話》【否定語を伴った主節と共に】…だからといって
 (…ない) (1 主節の否定語は文全体にかかる; 主節の後でも be-
 cause の前には通例コンマ[休止]をおかない) ▶ I didn't
 come here because I wanted apologies or thank-
 you(✓). All I wanted was for us to be friends. 謝
 罪や感謝の言葉が欲しくてここに来たんじゃない。ただ友達になりた
 かったんだ (≡ It was not because I wanted apologies
 or thank-yous that I came here ...) (1 1 と違って文末
 は下降上昇調となる)。

【語法】 (1) 強意のため because の前にしばしば just を伴う
 ▶ Just because you're moving in, don't push me
 out. 中に入ろうとしているからって, 私を押し出さないでくれ/
 They think that just because they like it, I like
 it. 彼らは自分たちがそれが好きだからといって, 私も好きだと
 思っている (1 主節 I like it に否定語は含まれていないが, こ
 こでは I don't like it. という否定的内容を暗示している)。
 (2) 慣用的に just because 節が主語になることがある ▶
 Just because people don't talk doesn't mean
 they don't think. しゃべらないからといって考えていないとい
 うことにはならない / Just because I'm a woman
 doesn't make me a mother. 私が女性だからといって母
 親だと決めつけないで。

- ・ 教科書本文では that 節内で because が使
 われていること, そこで just because で始
 まる節が主語になっており, それに doesn't
 mean ...が動詞句として続いていることを
 確認させる。
- ・ 同じ形が太字用例になっているので, 語義
 3 の【語法】コラム(2)をチェックさせる。用例
 訳や, 慣用的に just because で始まる節が
 主語になるという説明を確認させる。教科
 書本文が「建物が一時的なものだからといっ
 て, 見栄えがよくなくていいということには
 ならない」という意味になることを理解さ
 せる。

Crown English Communication I, p. 103.

“They have to stay in nice places. I ⁽¹⁾think it very important that they see something beautiful.”

A man who survived 3/11 said that his 10-year-old daughter was smiling and happy after the family moved into Ban’s attractive housing in Miyagi. The man said, “That was the first time ⁽²⁾since the disaster that I had any real sense of relief.” Though the Miyagi housing is meant to be temporary, some of the people living there like it so much that they want to stay for ⁽³⁾good.

(1) think 動④ **1d**, p. 2052.

d (かたく) **[[think A (to be) C] A (物・事・人) を C (状態など) とみなす** (1) Cは 図 ④. (2) to be を伴うと客観的判断を暗示するが, be thought to be C という受け身の形以外では (まれ). (3) (that) 節を用いる方が普通; ↑ **a**) ▶ We thought her beautiful. 私たちは彼女のことを美しいと思った (≒「よりくだけて」 We thought that she was beautiful.) / You ought to think yourself lucky. 自分は運がいいと思わなきゃ / I think it a good idea to collect money for the plan. その計画のためにお金を集めるのはよいことだと思う / I think it very possible that he'll retire this year. 彼が今年退職することは十分ありうると思う / A gene is thought to be the cause of the disease. ある遺伝子がその病気の原因だと見られている (↓ **コーパスの窓**).

類義 think A (to be) C と find A (to be) C

think は意見を述べる時に用いるが, find は個人的経験に基づく発見に用いる ▶ She thought [× found] it necessary to apologize again. 彼女はもう一度謝る必要があると思った / That night I found it difficult to sleep. その夜はなかなか眠れなかった.

コーパスの窓 A be thought to do

受動態の場合, to 不定詞には be 動詞のほか, 通例状態動詞 (→ stative **文法**) や完了形が現れるが, 普遍的現象にふれるときは動作動詞 (→ can¹ **1a** **文法**) が用いられることもある ▶ Linda is divorced and is thought to live with her three sons. リンダは離婚して3人の息子と住んでいるらしい / Mars is thought to have had water. 火星には水があったと考えられている / The mountains are thought to control the weather. 山並みが天気を左右すると考えられている.

- 教科書本文が think it very important に that 節が続いていることをチェックさせて, ここでは it を形式目的語(実際の内容は that 節内)にした SVOC の文型であることを確かめさせる。
- [[think A (to be) C]** の文型表示を手掛かりに **1d** を参照させる。() 内の to be は省略可能であることを示しているので, 教科書本文では省略されていることを確かめさせる。
- 辞書の第4用例が教科書本文と同じ形式目的語を使った文になっているので確認させ, 教科書のこの部分は「彼らが何か美しいものを見ることはとても大切だと思う」という意味になることを理解させる。
- 1d** に続く **類義** コラムには think と同様にしばしば形式目的語を取る find it (to be) C の形や, 2つの用法の違いが説明されているのでチェックさせるとよい。

(2) since 副 **2b**, p. 1839.

b **[[序数の後で]** …以来(…番目の) (↑ **2a**) ▶ Annie smiled **for the first time since** the accident. その事故以来アニーが初めてほほえんだ / **This [It] is the first time since** 1999 that the charge has fallen. 手数料が下がったのは1999年以来これが初めてだ / the 200th anniversary **since** Mozart's death モーツァルト没後200周年記念日.

- 教科書本文では since が first という序数の後で用いられていることから, **[[序数の後で]** という用法指示のある語義 **2a** を参照させる。
- 辞書の第2用例が教科書本文とよく似た形になっているのでチェックさせて, 用例訳から教科書のこの部分が「私が本当の安堵感を持ったのは震災以来はじめてのことだった」という意味になることを確認させる。
- 語義に続いて(↑ **2a**) という参照指示があることに注意させる。since が接続詞として用いられる場合も同様の表現が可能であることを確かめさせる。

2a **[[序数の後で]** …以来(…番目の) (↓ **2b**) ▶ At 35, I cried **for the first time since** I was eight. 35歳の時, 私は8つの時以来初めて声をあげて泣いた / **It was the first time since** Jim was born that we got more than 2 hours of sleep. 我々が2時間以上睡眠をとったのはジムが生まれて以来初めてのことだった (↓ **コーパス**) 主節の主語は it のほかに that, this などが用いられ, 過去のことには it, that, this, 現在のことには it, this, that, 未来のことには it, this を用いることが多い; that 節の that を省略するのは (まれ)。

(3) good 図 **成句** **for good**, p. 869.

for good = (英) **for good and all*** (将来変わる可能性がなく)いつまでも, (これから先)ずっと, 永久に ▶ I hold you **for good**. 君をもうずっと離さないよ.

- 成句義から教科書のこの部分が「ずっとそのままいたい」という意味になることを確認させる。for も good も生徒のよく知る単語だが, 組み合わせさせて成句になった場合, 類推できない意味があることに気づかせたい。

Crown English Communication I, p. 104.

—4

In 2014 Ban won the Pritzker Architecture Prize. Some people call it the Nobel Prize of architecture. One of the judges said that it is wonderful that a first-rate architect ⁽¹⁾devotes himself to disaster victims. His buildings serve their aesthetic as well as their everyday needs.

Ban says, “This prize encourages me to ⁽²⁾keep on doing what I am doing. Don’t change; try to grow.” For him, “to grow” does not mean making the tallest building or having the biggest office. In ⁽³⁾fact, he says he would like to have an even smaller office. He wants to have more time to spend in disaster areas rather than in his office.

Lesson 7—Section 4

(1) devote ㊦㊧㊨, p. 541.

2 [devote oneself to A/be devoted to A] (人が) A (仕事など) に専念する, 打ち込む; A (人) に自分のすべてをささげる (㊦ A はしばしば ㊧名) ▶ They are devoting themselves to farming. ≒ They are devoted to farming. 彼らは農業に専念している/She devoted herself to her children. 彼女は子供を熱愛した。

- 教科書本文が devotes himself to disaster victims と再帰代名詞+to の形を取っていることをチェックさせ, [devote oneself to A/be devoted to A] の文型表示のある **2** に導く。訳語を参照させ, 教科書のこの部分は「被災者に自分のすべてを捧げる」という意味になることを理解させる。
- 文型表示内ではスラッシュ(/) で区切って別の形を取ることも示されているので, 受動態でも使われることに注意させるとよい。

(2) keep ㊦㊧㊨ **2a**, p. 1098.

2a [keep (on) doing] (やめないで) …し続ける; 繰り返し…する (㊦ on は, 行為・出来事が通常ならやめたり終わったりしてしまうような状況で依然として継続することを強調する際に用いられる; ↓㊧ **2b**) ▶ Keep (on) going until you get to the shrine. 神社に出るまでこのまま進みなさい/Everyone tried to stop her, but she kept on running. 誰もが彼女を止めようとしたが彼女は走り続けた/I kept telling myself that I was not to blame. 私が悪いわけじゃないとずっと自分に言い聞かせた/It's easy to die. It's the keeping on living that's hard. 死ぬのは簡単だ, 難しいのは生き続けることだ (㊦ 状態動詞を続けることも可能)/That question is going to keep on being asked for centuries. その質問は数百年尋ね続けられることになりそうだ (㊦ 受け身を続けることも可能)。
b [keep doing] 繰り返し…する, …してばかりいる, いつも…する (㊦ keep doing は行為がやめられない場合や, 話し手のいらだち・行為のしつこさを暗示する場合に多く用いられる; ↑㊧ **2a**) ▶ It is difficult to keep saying no. 断ってはかりはいられない/That scene keeps coming back to me. あの光景が繰り返し思い出される/The baby kept crying and being sick. その子は泣きやまず吐き気もやまなかった (㊦ 状態動詞を続けることも可能)/You can't keep doing the same thing forever. いつまでも同じことばかりやっているわけにはいきませんよ/I kept being told about the story. その話を何回も聞かされた (㊦ 受け身を続けることも可能)/I kept having to buy new socks every month. 毎月新しい靴下を買い替えなければならなかった (㊦ I kept on having to … は《まれ》)。

- 教科書本文が keep on doing という形になっていることをチェックさせ, [keep (on) doing] の文型表示がある **2a** に導く。丸っこ内の要素は省略可能であることを示していることに注意させ, on が省略された場合は [keep doing] の文型表示がある語義 **2b** と同じ形になることを確かめさせる。
- 2** つの意味の違いを比較させてから, 語義 **2a** の訳語に続く **㊦** の注記にある, on につ

いての解説を確認させる。教科書本文では「(普通ならやめてしまうような状況下でも) やめないでやり続けるよう私を励ましてくれる」という意味合いを出すために on が使われていることを理解させる。

(3) fact ㊦ ㊧ ㊨, in (actual) fact, p. 709.

in (actual) fact* (㊦ 通例文頭, 《かたく》では時に文中, 《話》では文末でも可) (1) [強調] (前言を補足・強化して) 実際には; つまり (㊦ (1) 後続部分の方が正確な内容や強い表現になり, 驚くような事柄が述べられることがある)。(2) 話し手が自分の言いたいことを要約したり念を押すことがある。(3) in actual fact は強調形 ▶ I love this city. In fact, Tokyo is my hometown. この町が好きなんです。実際, 東京出身です/I'm not very well, a bit feverish in fact. あまり具合がよくなく, 実際少し熱っぽい。(2) [否定・訂正] (前言や予想とは異なることを強調して) それどころか; ところが実際は; (見たい目は違)いむしろ (㊦ (1) 相手の発言を訂正したり, 言いにくい事実を述べる場合は well などと共に用いる)。(2) 話し手の主張を強調する; → actually (読解のポイント) ▶ The ad says it's a steal, but in fact it's really expensive. 広告ではお買得と言っているけど, それどころか高すぎる/"Where are the eggs?" "Well, in fact, I forgot to buy them." 「卵は?」 「あー, 実は買い忘れました」。

会話のシグナル in fact は《つなぎ表現》として前文の内容を明確にする情報を付加するが, 大まかに言って2つの機能がある。1つは, 前文の内容を補足したり強化するもので, より正確な情報や前文の内容を強めた表現が提示される。しばしば and と共に用いられる。もう1つは, 前文の内容や一般に考えられていること, 相手が予想していることとは矛盾する情報を提示する機能である。しばしば but と共に用いられ, 相手の予想とは異なることを述べる前置きとして話し手のためらいを表す well などの語と共に用いられ, 相手に対する気遣いを示す (→ really (会話のシグナル))。

- まず, 教科書本文の前文が「彼にとっては『成長する』とは, 最も高いビルを作ることでも最も大きなオフィスを持つことも意味しない」と述べていることを確認させる。続く In fact で導かれる部分が「彼はもっと小さなオフィスを持ちたいと言う」と述べていることから, 「成長するのに今までより小さいオフィスで働く」という一見矛盾する内容が続いていることに注意させる。
- 大まかな用法を示す [] に囲って「否定・訂正」を意味するとした成句義(2)を参照させる。語義の補足説明を示した()を含め, 「(前言や予想とは異なることを強調して) それどころか」という意味を表すことを確認させる。教科書のこの部分は「(普通の『成長する』こととは違って, いちばん高いビルや大きなオフィスなどを持つことなど彼にとって重要ではなく,)むしろそれどころかもっと小さなオフィスを持ちたい」と述べていることを理解させる。

Crown English Communication I, p. 105.

Ban always seems to be looking for ways to grow, ⁽¹⁾whether working in disaster relief or designing new buildings. He believes architects must be aware that people need not only shelter for the body but also beauty and dignity for the spirit. Through his tireless efforts to build shelter and dignity, Ban is changing our world for the ⁽²⁾better.

(1) whether 図 2, p. 2244.

【譲歩の副詞節を導いて】(→when 図 1 a 文法)

2 [whether... or (not)] ...であろうとなかろうと; [whether A or B] AであろうとBであろうと (1) A, Bは語または句. (2) この用法では if は用いない. (3) この用法では or... の部分を必ず伴う) ▶ Whether you help [× you will help] or not, the plan will fail. 君の助けがあってもなくてもその計画は失敗するだろう (譲歩の whether 節では現在形で未来を表す; ↑ 1 a) / We all carry our past with us, whether we like it or not. 好むと好まざるとに関わらず, 我々は過去を背負っているのだ / Whether (he is) sick or well, he is always cheerful. 病気のときも健康なときも彼はいつも陽気だ.

- 教科書本文では whether 節が主語や目的語といった名詞としての働きではなく, 主節の文に続いて, 全体を修飾する副詞の働きをしている副詞節であることを確認させる。【譲歩の副詞節を導いて】というサインポストを探させて語義 2 に導き, 教科書本文が「災害救援活動であろうと, 新しい建物のデザインであろうと」と述べていることを確かめさせる。
- 図 2 の注記を参照させる。特に(2)には, 副詞節で使われる whether は語義 1 a の名詞節の whether のように if 節で言い換えることができないとあるので, 注意させる。

— 図 1 【名詞節を導いて】【従属接続詞】(→that 図 1 a 文法) 1 a [whether... (or not)] ...かどうか; [whether A or B] AかBか (1) A, Bは語または句) ▶ I don't know whether [(より) かどうか] if he will come. ≡ I don't know whether [(まれ) if] he will come or not. 彼が来るか来ないかは私には知らない (≡ I don't know whether [× if] or not he will come.; ↓ 成句) whether or not) (1) 名詞節の whether 節内では未来の出来事を will で表すことができる; ↓ 2. (2) [if... or not] は可能だが (まれ); × if or not (...) としない) / Mike asked me whether I would help. マイクは私に援助してくれるかどうかたずねた (≡ Mike said to me, "Will you help me?") / We are not certain (as to) whether the wild bird is a male or a female. その野鳥がオスなのかメスなのかははっきりしない / Everything will depend on whether you can agree (or not). すべてはあなたが同意できるか否かにかかっている / Whether Tom is rich or poor doesn't matter to me. ≡ It doesn't matter to me whether Tom is rich or poor. トムが金持ちか貧しいかは私にはどうでもよい / The important thing is whether he is to be trusted (or not). 重要なことはあの人が信用できるかどうかである。

(2) better 図 成句 for the better, p. 196.

for the better より良く (変える・改善するなど); (人・状況などが) 快方に (向かう・変化するなど) ▶ A man could change for the better. 人は成長することができる。

- 教科書本文では, 形容詞比較級ではなく前置詞に導かれた名詞であることに注意させて, 名詞の成句を調べさせる。
- 成句義に続き, この成句とともに使われることの多い語(選択制限)が山形かっこで示されているのでチェックさせる。成句義の「より良く (変える・改善するなど)」という部分が, 教科書本文の is changing the world (世界を変えている) という表現と合っていることを確かめさせる。